

NGO支援金 私が稼ぐ



7日のミニフェスの打ち合わせをする北星学園女子高の生徒たち



ファンドレイジングに挑戦するのは普通科の2年生54人。カンボジアへの修学旅行は5回目となるが、資

金集めは今回が初めて。生徒は10グループに分かれ、1グループ3千〜5千円の獲得を目標に今春から活動を始めた。音楽科の生徒に協力してもらい教会でコンサートを開いたり、知り合いの農家から安く仕入

北星学園女子高 来月カンボジア修学旅行

北星学園女子高(札幌)の生徒が10月に修学旅行でカンボジアを訪れるのに合わせ、現地の非政府組織(NGO)に資金を提供しようとするファンドレイジング(資金獲得)に奮闘している。募金はせず、コンサートや野菜販売でお金を集め、国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)の実現を目指す団体に贈る。9月7日に同校で資金集めのためのミニフェスを開く。
(久保田昌子)

10グループで活動 7日にミニフェス

れた規格外の野菜を父母会で販売したりしている。募金やインターネットでの集金はせず、自分たちのアイデアで汗をかきながら資金を集めている。校内で綿あめを売った若狭ひよりさん(17)は「大変だけど、やりがいがある」と話す。10月23〜28日の修学旅行では、北大大学院出身の女性が現地の雇用をつくるために始めた織物工房など六つのNGOを訪問。活動を実験見学した上で、どのNGOに資金提供するか、生徒が話し合って決める。訪問先は、女性の自立支援や教育支援などSDGsの実現を目指す団体に絞った。原ナディアさん(16)は「ネットだけでは分からないことがある。現地で見ると、日本の課題についても考えたい」と張り切る。ミニフェスは7日午後2時から約2時間開き、入場無料。生徒が知人宅を片付けてお礼にもらった不用品や手作りの巾着、規格外の果物を販売する。カンボジアの歴史や課題についても発表する。取り組みをサポートする黒岩萌実教諭は「『カンボジアのため』というだけでなく、目標に向かって考え行動する体験を通して自分たちの可能性を広げてほしい」と話している。